

第3回 北広島市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議 会議概要

日 時	平成 27 年 9 月 16 日（水） 15：00～17：00
場 所	市役所本庁舎 2 階会議室
出席委員	山本一彦委員・麻生昌裕委員・井出真也委員・小野麗子委員・宍戸圭子委員 田辺きよみ委員・藤山康雄委員・深村真人委員・富士原孝浩委員 古澤将委員・宮岡則昭委員・山口隆弘委員
欠席委員	笠井孝一委員・鈴木宏一郎委員・丹野司委員
事務局	中屋企画財政部長・川村企画財政部次長・橋本企画課主査・山田主任 安井主事
傍聴者	4 名
会議次第	1 開会 2 第 2 回推進会議の振り返り 3 議事 （1）まち・ひと・しごと創生総合戦略（重点戦略）について （2）次回推進会議の日程 （3）その他 5 閉会

1 開会

- ・ 委員 15 名中 12 名が参加。委員の半数が出席していることにより、会議が成立していることを報告。

2 第 2 回推進会議の振り返り

(事務局より資料に沿って説明)

- ・ 委員から異議等がなく了承された。

3 議事

(1) まち・ひと・しごと創生総合戦略（重点戦略）について

(事務局より資料の説明)

【会長】

- ・ 前回会議の意見が基本目標や施策に反映されている。今回も 4 つの柱について、それぞれ順番にご意見をお願いしたい。

<チャレンジできる環境をつくり、起業と雇用を促進する>

【A 委員】

- ・ 起業支援について、クラウドファンディングやイノベーションファンドなど、通常のファイナンスに馴染まない商品も金融機関は用意している。農業分野だと 6 次化ファンドや農業応援ファンドなどもある。市から金融機関に情報を渡し連携して起業支援や地場産業強化を応援する体制をつくるのが大事である。
- ・ 企業との連携、支援強化について、金融機関では商談会を実施しビジネスマッチングに取り組んでいる。海外支援等も各金融機関で実施しているので、市と金融機関が連携することでこの戦略の実効性を高められる。

【B 委員】

- ・ 金融機関では地方創生ファンドも創設しているので活用を検討して欲しい。
- ・ 活用できる国や市の補助制度をラインナップすれば、おのずとそれを活用して活躍できる業種や規模の企業が見え、それに合った方が北広島で起業したいと言えるようになる。

【事務局】

- ・ この会議に金融機関の方に参加してもらうことが、今回の特徴でもあり、様々な金融商品とのマッチングは、自治体側にも連携が求められている。

【C 委員】

- ・ ハローワークでは、起業の際、3 名以上雇用した上で事業を行う場合に助成金が

交付される制度がある。条件はたくさんあるが設備投資、賃金に対する助成もある。

- ・ 既存の企業向けについては、ひとり親家庭、障害者、高齢者（60歳以上）を雇用する際に助成金がある。
- ・ 在職者向けのキャリアアップ助成金として、訓練・研修を実施する際の助成金がある。
- ・ 雇用したい、事業を工夫したいという時に一度ハローワークに相談するとよい。

【事務局】

- ・ 制度等の情報をどう周知するかを含め連携を図りたい。

【会長】

- ・ 有効求人倍率は比較的高いので、施策を上手く進めると雇用の創出については十分効果が期待できるのではないか。

【D委員】

- ・ 中小企業の中でも90%が小規模事業者といわれているので、小規模事業者を対象を絞って支援し、雇用拡大を目指したらどうか。

【事務局】

- ・ 経済部とも相談し、検討したい。

【E委員】

- ・ 農業を核とした新たな産業というのを一から始めるのは難しい。例えば、市民農園で市民が作った農作物を収穫時期に「市民マルシェ」として夢プラザ等で販売し、売上金の10%を市に寄附するなど、取り組みやすいレベルから始めて、そこから起業につながる可能性もあるのではないか。

【事務局】

- ・ 市民農園を活用した事業という意見は興味深いですが、このような内容は戦略に直接記載せず、事業実施の際の参考にする。

【F委員】

- ・ 雇用後の離職率を抑制するという視点、企業と連携して雇用促進の次のステップまで見せてもらえると、地元企業と被雇用者の関係が長く保たれるまちであるという印象が根付いていく。

【C委員】

- ・ 離職の対策として、ブラック企業を明らかにすることが国で協議中である。新卒者は1~3年で離職する傾向が多く、よって企業側が雇用しない、または期間雇用が多い。思っていたのと違うという離職理由が多いので、企業でどういうことをしているか学生に知ってもらおう機会を作ればよいのではないか。

【F委員】

- ・ 学校と企業の接点を増やすため、インターンシップの有効活用するなど、市場を設定するとよい。

<北広島市への新しい人の流れをつくる>

【E委員】

- ・ 札幌と新千歳空港の間は人が流れているが、北広島は素通りしてしまう。アウトレット、ゴルフ場など部分的に人が来るに留まってしまう。クラッセホテルはあるもののリーズナブルに宿泊できるビジネスホテルは無い。出張に便利な土地であり、札幌ドームでコンサートやスポーツ観戦などがあるとその周辺のホテルは全部埋まるのでニーズはある。北広島にステイしてもらうため、安価に宿泊できるビジネスホテル等の企業を誘致できないか。

【事務局】

- ・ 札幌でホテルが不足しており、クラッセホテルは外国人旅行客が多く、全体として稼働率が高いと聞いている。しかし過去に駅前にホテル誘致の動きがあったが、北広島市という条件では当時は出店が無かった。

【会 長】

- ・ 8月上旬に開催された北の酒まつりでは来場者の半分が市外から来ていたということもあり、人が来てお金を落としてくれる機会はいくらでもつくれそうだ。

【A委員】

- ・ 若い世代の定住促進について、子どもが独立して夫婦2人で広い一軒家に住んでいる家庭は多いが、除雪など維持管理に苦勞しているようだ。少し狭い住宅に転居し、住んでいた家は売却または賃貸したいというニーズがあるのではないだろうか。市と金融機関が情報交換を行い連携しながらニーズに応えたい。
- ・ 大学進学支援について、教育ローンの仕組みを利用し、卒業後に元金を返済するなどUターンの場合は、市で支援をする検討に値すると思う。
- ・ ふるさと納税の寄附の方法は振り込みなのか。クレジット機能を活用している自治体もあるので検討してはどうか。

【事務局】

- ・ ふるさと納税について、指定金融機関、市外であれば郵便局の窓口で直接支払う形である。

【会 長】

- ・ 大学支援について、関東の自治体では地域のイベント等に参加することを条件に家賃を助成するという取り組みがある。市と学校が協力することで若者が定着していくこともある。

【D委員】

- ・ 色々なイベントを開催し人を呼び込みたいが、そのためにはイベントを開催する場所の確保が必要である。札幌から十数分の近さにあるので、駅から歩いてすぐ行ける場所で自由にたくさんのイベントが開催できたら良いのではないかと。

【事務局】

- ・ 駅周辺の整備については、団地の活性化策と併せて考えていかなければならない。

【B委員】

- ・ インバウンド観光の促進について、最低限の環境整備に留まるのか。その他にも検討を進めるのであればその旨の記載があった方がよい。

【事務局】

- ・ 最低限の環境整備をしつつ、次に何をするのか、北広島の観光は景勝地等があるわけではなく、DMOの活用が当市に馴染むのかも含めて経済部と研究していく必要がある。

【会 長】

- ・ 市外の自転車に乗る人に、エルフィンロードはとても羨ましがられる。市内のみではなく札幌市に繋がっており、魅力的な資源である。

【H委員】

- ・ 自然を活用した施設として、キャンプ場、ドッグランなど作ってはどうか。子どもが遊べる場所の近くにホテルがあると人が来る。くるるの杜は、収穫、調理、買い物と丸一日過ごせるので、そういう場所がもっとあるとよいのではないかな。

【事務局】

- ・ 市内にキャンプ場はある。また、子どもが遊べる施設としてはレクリエーションの森がある。レクリエーションの森は、国の補助金を活用して運動公園予定地と併せて一体的に民間活用や多機能施設の検討など調査・検討するところである。市の目玉として自然を活かしたアウトドア活動、体験などの施設をつくるのはどうかという意見として持ち帰る。

【F委員】

- ・ 外国人観光客は増加しており一人当たり消費額も大きいですが、円安などの景気に左右されるため、札幌市民が週末に遊びに来るということを定番にするという視点もあるのではないかな。この時期に北広島に行けばこんなイベントがあると聞いたイベントの定番化は考えられないかな。スポーツ・健康のツーリズムなど、ソフトな面に取り組むとして日帰り客対策というのはどうか。

【事務局】

- ・ 観光面については、観光推進協議会で観光資源を探しながら進めているところであり、近隣市から人を呼ぶことも意識しているが、戦略に入れるというのは一度持ち帰らせていただき、本部会議で考えたい。

<子どもを生き育てたいという希望を叶える>

【B委員】

- ・ 婚活応援が新たに加わっているが、具体的内容を知りたい。

【事務局】

- ・市ではこれまでに2回婚活のイベントを実施してきており、また、前回ご意見をいただき盛り込んである。まちをより知っていただけるような切り口での婚活イベントを考えており、今後もその方向で考えていきたい。
- ・北海道でも婚活支援があり、圏域の中でも結婚相談支援の協議会をつくりながら進めている。

【D委員】

- ・商工会でも話題になっている。企業間同士での出会いの場をつくるのはどうか。男性が多い企業、女性が多い企業があるので、企業間婚活の検討はいかがか。

【事務局】

- ・地元を巻き込んだ婚活支援は非常に意味がある。男性の参加が鈍いので企業間婚活は取り組みたい。

【K委員】

- ・大学生の合コンなどは共通する仲間同士で参加することが多い。男性が多い職場は例えば自衛隊、女性が多い職場は看護師や幼稚園の先生など、それぞれ出会いの場を求めている。そういうニーズを発掘し、市外からも募って、同じ趣味なども含め、色々なニーズに絞って何度か実施すると、より効果が上がるのではないか。

【A委員】

- ・安心して出産、子育てができるというのは、非常に重要な視点である。北広島市は安心して出産、子育てができるというイメージをどう作り上げ、浸透させるか、戦略をコツコツ積み上げて、対外的にもPRしていくことが必要である。

【F委員】

- ・婚活について、40代前半の女性は仕事で活躍し役職についているので、なかば結婚を諦めている。20代後半は本来婚期なのに仕事が楽しい時期でもあり晩婚化が進んでいる。婚活イベントは、あまり趣味などを絞らず幅広い人が参加できるものが良い。ガーデニングやイルミネーションのツアーの中にクラッセホテルでの食事を盛り込むのはどうか。
- ・男性の育児休暇取得率が低いというのを改善することは難しい。有給休暇の取得でもいいので、育児のための休暇取得を促進するよう企業に自治体から促すことはできないか。
- ・女性の「育児負担」という表現は、育児が負担な訳ではないので修正願いたい。
- ・10月に最低賃金が上がるので、夫の扶養の範囲を超えないよう働くことを諦める女性もいる。20代の母親は働かず子どもと居たい、30代の母親は子どもが大きくなったので働きたい、年代別ニーズのバランスの分析も必要ではないか。
- ・市の子育て支援については、情報を自分から求めれば、広報や出張所、公民館等で十分入手できるが、情報を求めるのが苦手な人は、家に子どもと籠り、孤

独感、育児不安を持つかもしれない。母子手帳の交付時期などにたくさん情報がもらえる仕組みになっていれば出産の不安が少し和らぐ。

【B委員】

- ・ 女性の「育児負担」という表現を女性の「社会進出を妨げる」や「孤独感を誘発している」という表現にするのはどうか。

<時代に合った魅力的なまちをつくる>

【J委員】

- ・ 西部小学校で研究授業としてNIE*に取り組んだ記事が道新に掲載されていた。市内全校で徹底的に取り組むとよいのではないか。

*NIE(Newspaper in Education)…学校などで新聞を教材として活用すること。

【K委員】

- ・ 現場でもNIEは大切だと考えている。キャリア教育、福祉、人権に市の重点教育として挙げている。
- ・ 市はキャリア教育に力を入れており、中学校2年生で職場体験（インターンシップ）を2～3日間実施しているが、受け入れ場所は全市のため移動に苦勞する。ガソリン代程度の市の支援はあるものの、現場は苦勞している。キャリア教育は大切なので、もう少し市の支援を厚くして欲しい。

【L委員】

- ・ リノベーション住宅の推進について「イメージ写真の掲載」とは、市のホームページのことを指すのか。

【事務局】

- ・ 現在の空き家バンクでは、古い住宅の写真で紹介しているが、リノベーションする前と後の住宅の写真を掲載すると入居のイメージがしやすく、購入（または賃貸）意欲につながるのではないかという意図で、市のホームページ等を活用して実施する想定である。

【K委員】

- ・ 定住促進にもつながるが、北広島の土地は札幌の3分の2程度の金額で購入できるので若い世代には魅力的だが、若い世代はあまり知らない。建築業や建設業者の努力も必要であるが、市外への発信をもっとすべきである。特にファーストマイホーム支援制度は、市外に知ってもらうべきであるのでPRの仕方をもっと工夫すべきである。

【A委員】

- ・ 不動産業者、建築業者、金融機関等と連携し、しっかりしたネットワークをつくって取り組んでいくとよいのではないか。住民から市に相談があった時に、そのようなネットワークを利用し、最良な情報を選択できるようにしておくとうい。そのような仕組みづくりが大事である。

【事務局】

- ・ 色々な施策や商品がある中で、それぞれが単体で動くのではなく、仕組みづくりは大事である。

【F委員】

- ・ 北広島団地の活性化、空き家の流動化促進、公共交通の充実はセットで考えられる。北広島市に移住した場合、市内で住み替えをしながら老後まで安心して暮らせるという「きたひろモデル」をつくり、パッケージとしてのまちづくりを強調して記載してはどうか。道内で最も古い団地（北広島団地）での取り組みは、全道、全国に対してのアピールになる。

【事務局】

- ・ ねらいはそこにあるので、そのような記載の仕方を検討したい。

【E委員】

- ・ 高齢者世代を利便性の高い地区に誘導とあるが、利便性の高い地区とはどこを指すのか。
- ・ また、その地区の中で一日を過ごすことを想定しているのか。

【事務局】

- ・ 北広島団地の内、北広島駅周辺と考えている。駅、医療機関、商業施設が徒歩圏内であるエリアを意識した表現である。
- ・ 日常を安心して暮らせるまちづくりと考えた時に、一日その地区で生活することを想定して考えている。

【E委員】

- ・ 高齢者は冬場の除雪が大変困難であるため、マンションを希望する方が多いと聞くが、高齢者向けの大型マンションの建設などは視野に入れているのか。

【事務局】

- ・ ハード面は戦略に掲載していない。立地適正化計画の中で駅周辺の高度利用、土地を有効に使うにはどうするかを検討する際、マンション誘致の必要性等も合わせて考えていく。

【E委員】

- ・ バス利用の促進について、西の里から大曲へは北広島駅を経由するため時間もお金もかかり過ぎる。現在のバスルートでは促進できない。市内循環バスがあると市内を動きやすい。

【事務局】

- ・ 5地区間が結ばれていないことで、地区間のコミュニティが無いと言われているが、生活圏はそれぞれ持っていて成り立っているのも現状。日常にある毎日の不便さと、目的達成のための月1~2回の不便さと2種類あり、その兼ね合いをどうするか公共の交通を考える上で難しい点だと認識している。北広島団地内の利用者は減少しており、バス運営は赤字が続いている中で検討しなければなら

らない。

- ・バスに乗らないが無くなると困るという声が多い。循環バスの効果なども含め検討していく。

【F委員】

- ・教育について、アンビシャス・プロジェクトの内容はこれから検討すると思うが、地元への愛着を高める教育（きたひろ学）を加えたらどうか。
- ・キャリア教育と関連し、発達段階に応じた結婚適齢期に対する正しい知識を学ぶことで晩婚化を抑制できないか。また、将来自分が北広島で家族を持った生活をイメージでき、ポジティブにとらえられるような教育が必要である。

【会 長】

- ・今後は市の方で、実施年度、目標、それに対する目標数値、費用面、会議の意見を含めた制度設計に取り組んでいく。
- ・次回開催について事務局より説明する。

(2) 次回推進会議の日程

- ・重点戦略については、この会議の意見等を踏まえ10月開催の本部会議で報告予定である。優先的かつ重点的に取り組む施策を整理し10月下旬に原案の作成を進め、次回推進会議において説明したい。
- ・次回開催については11月をめどに事務局が後日日程調整する。

(3) その他

- ・市議会に対しては、8月下旬から各会派に説明し意見をいただいている。
- ・各部局では、戦略に掲載している内容について、実施年度、費用、KPI、体制等、制度設計に取り組んでいる。

4 閉会